

命の重みを考える～臓器提供をめぐって～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力

- 1 日 時 令和元年11月13日（水） 5時間目
- 2 学年・学級 3年A組（男子14人 女子19人 計33人）
3年B組（男子14人 女子19人 計33人）
自閉・情緒特別支援学級（男子1人 女子0人 計1人）
- 3 主題名 自他の生命の尊さ
（中学道徳 あすを生きる 3 日本文教出版）
- 4 ねらい 臓器提供という現代的な課題をとおして、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重する態度を育てる。
- 5 資料名 「臓器ドナー」

6 主題設定の理由

（1）主題観・価値観

本主題は、内容項目D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の（19）「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」により設定した。

道徳が教科化された背景の一つに、児童生徒の生命に対するリアリティーの弱さの問題があり、リアリティーのある生命尊重の教育が求められていることは言うまでもない。自己の生命の尊厳について深く考えると同時に、自己以外のあらゆる生命の尊さへの理解につながるよう、命と真剣に向き合う機会をどのように構築していくか、極めて重要であると言えよう。

平成9年に臓器移植法が制定され、平成22年の改正によって、本人の意思が不明であっても、家族の承諾により臓器提供が出来るようになり、また、15歳未満であっても家族の承諾により脳死後の臓器提供が可能になった。臓器移植を題材とする授業は、生命倫理という重い課題を踏まえて、「生」と「死」の問題に直接向き合い、「生きる」ことについて考えることを可能にする。

『多面的』な見方とは、例えば、生と死、自己と他、あるいは感情と認知など、対立的・対比的に見たり、つながる命、共生する命、持続する命、変化する命などさまざまな見方をしたりすること（中略）自分は与えられた命をどのように生かしていくか、命の大切さをどのような形で自己実現していくかなどと自分らしい生き方の角度を方向付けたり選択したりすること、それが『多角的』な思考（「いのちの教育セミナー2018」座談会より）とあるように、臓器移植について考えることは、自

分の命を見つめることのみならず、家族や他者の命について同時に考え、他者のさまざまな価値観に触れる中で、必然的な自己対話を生み、その過程で生死観というものに対する深い思考を育み、自分の生き方を考えていくことにつながりうる。まさに、リアリティーそのものの生命尊重の教育であると言えるのではないか。

そこで、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、生命の尊さの理解と実践意欲につながるものとして、本主題を設定した。

(2) 生徒観

中学3年生のこの時期は、自分自身の判断や意志で生きていきたいという自立への意欲が高まってくる。また、他者との関係性に思いを巡らしたり自分が今在ることの偶然性について深く考えたりするなど、自他の生命に関わる思索が深まる時期でもあるといえよう。

しかしながら、比較的健康的に毎日を過ごしている生徒にとって、自他の生命が今在ることが当たり前の日常になっており、生命を重んじることの具体が想像しにくい現状は否めない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を深く揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。このような現状は、ややもすると生命軽視の言動につながることもありうる。日々の生活の中で、折に触れて生命の尊さを考えさせ、自覚させることは当然ながら、道德の授業においても命の教育として直接的に命と向き合う授業を仕組んでいくことは極めて重要であると考え。

本学年の生徒は、これまで概ね規律的で落ち着いた学校生活を送ってきた。さまざまな活動を共にし、他者と関わる中で、自己肯定感も年々高まってきている。集団の中において他者への配慮が出来る場面も多い。しかしながら、授業においては、発問に対する積極的な反応は薄い。自分の意見をもつことはできるものの自ら進んで全体場で表現しようという姿勢も希薄である。

道德の授業においては、問題意識をもち、自分自身との関わりで考えるなどの「主体的な学び」の姿勢は、充分とはいえないものの、振り返りの内容を見る限りにおいては有している。グループ学習などの話し合い活動や、他の意見を聞いて自分の意見に加筆するなど学びを共有しようとする姿勢もあり、協働し対話する、多角的・多面的に考える「対話的な学び」もできつつあると捉えている。そこで、より深い学びに向かうために、その道德的価値について「考えたい」「仲間の意見を聞きたい」「自分の意見を伝えたい」など思考や表現することへの欲求をかき立てるような教材や展開が重要になってくると考える。まさに、本教材を選択した意図もそこにある。

折しも同時期、社会科においても臓器移植法の制定について学ぶ。文化祭の劇においても「いのち」の重みを取り上げる。他教科・領域との関連においても、取り組むべき必然性があると考えている。

(3) 教材観・指導観

本教材は、命の尊さや価値観を、臓器提供意思表示カードや子を持つ母と医師の二人の臓器提供に関する投書をとおして考えさせるものである。臓器移植は大変重い題材でありながら、他人事になりがちな問題でもあり、自分の死後を想像しながら意思をもつことについて実感も湧きにくいという問題を孕んでいる。短絡的な判断や感情だけで選択するような表面的な展開では、命の尊厳を冒瀆することにもなりかねない。さまざまな立場に立って考え、他者の考えを知る中で、考えれば考えるほど葛藤し、判断に苦しみながら自分の考えを表現していくような展開であってこそ「深い学び」につながっていく。

そのためには、臓器移植医療全般にわたる基礎知識、つまり、脳死に対する正確な知識、日本にお

ける臓器移植の歴史についての知識を押さえておくことは必須である。現実にもその場面に直面した臓器を提供するドナー側の思い、臓器移植が唯一の治療法であり、移植によって新たな命を得たケース、またドナーが見つからず命を落としたケースなど、臓器移植を待つレシピエント側の思いや「人の死を待って自分が助かる」という葛藤や苦悩についても資料を提示することが重要である。

人はいつ、どちらのケースになるか分からない。自分は臓器提供をするのか、自分が提供する意思を持っているとしたとき、家族はどう思うのか、自分の大切な人が脳死になった場合、あるいはレシピエントになった場合、自分はどのような判断をするのか、正解のない問いであるからこそ、自分の価値観に照らし合わせ、仲間の考えに自分を重ね、納得解に向かおうとする。その過程で、生命の重み、そのかけがえのなさや自ずと向き合い、どのように生きていくのかを考えていくに違いない。

指導に当たっては、中心発問に対しては、ネームカードを活用して、個々の選択を可視化し、判断理由を自分の言葉で表現させることをとおして、それぞれの考えを尊重しながら、考えがより深まっていくよう意図的指名も織り交ぜながら進めていく。また、振り返りについては、導入、展開の場面において、次の展開につながる視点を明確に行い、終末においては、道徳的価値に対する自分の変容を確認しつつ、深めた価値を温めるような視点を設定して行っていく。

7 本単元を通して伸ばしたい資質・能力

※塩町中学校区では、小中9年間で身に付けさせたい9つの能力を定めている。(重点◎)

塩町中学校区 9 能力					
① 情報活用能力 (調べてまとめる力)		④判断力 (自分で決める力)	○	⑦体力・継続力 (ねばり強くやりきる力)	
② 発見力 (見つける力)		⑤表現力 (伝える力)	○	⑧人間関係形成能力 (人とのかかわる力)	
③ 思考力 (考える力)	◎	⑥将来設計能力 (なりたい自分を描く力)		⑨生活力 (学んだ事を生かす力)	

○思考力・・・臓器提供に関わって、自分は臓器提供をするのか、しないのか、自分が提供する意思を持っているとしたとき、家族はどう思うのか、自分の大切な人が脳死になった場合、あるいはレシピエントになった場合、自分はどのような判断をするのかなど、さまざまな立場に立って考えるとともに、仲間の考えも尊重しながら、命の重みについて考えを深め、道徳的価値に基づく自分の生き方を考えることができる。

○判断力・・・さまざまな立場で臓器提供について考える中で、自分は臓器を提供するのか、しないのか、という意味を、自分の考えの理由や根拠を明確にして選択、判断することができる。

○表現力・・・自分の価値観をめぐり、仲間の考えを受け止め、どのような思考によって今現在どう選択・判断するのか、自分の言葉で相手に伝わるように表現することができる。

8 準備物 ドナーカード・ネームカード・プロジェクター

9 学習の展開

学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	評価規準 【資質・能力】 (評価方法)

導入	○臓器移植について知る。	○臓器提供意思表示カードについて知っていることを挙げてみよう。 ●臓器提供に関する知識の共有化（カードによる3通りの意思表示・脳死の定義・臓器移植法の改定・臓器移植の歴史・現在の日本とアメリカの心臓移植数のデータ・日本レシピエント数やドナー登録者のデータ）を図る。 ◆実際のカードを見せる。 振り返り① カードで示せる3通りの意思表示について理解できたか。	
展開	○教材「臓器ドナー」を読み、臓器移植を巡る問題を捉える。 ○自分は臓器提供を希望するか、希望しないか、理由も合わせて考える。	○臓器提供を通して、自分の命や身近な人の命、他の人の命について考えていこう。 命について考える～臓器提供をめぐる ○高井さんが「娘をドナーにできない」というのはどんな思いからだろう。また新見さんが自分の臓器提供には肯定的なのに、妻の臓器提供には否定的なのはなぜだろう。 ☆自分の大切な家族だから、亡くなっても体を傷つけることはしたくないから。 ☆脳死であったとしても、自分の手で心臓を止めるという判断はできないから。 ☆自分や家族のことを思えば臓器がほしいという思いはあるが、他人にはあげたくないという矛盾した思いがあるから。 ●生命に関する判断は重く難しいものであり正解はないが、選択する場面は将来あり得るということを押さえておく。 ◆高井さん、新見さんの投書のポイントなる部分を押さえておく。 ○あなたは臓器提供を希望するか、それとも希望しないか。3通りの選択肢から、ネームカードで意思表示をしよう。選択して、理由もしっかり書いてください。 ●状況ごとの選択ではなく、自分が臓器提供の意思表示をした場合の家族の思い、また、自分や家族がレシピエントになった場合の思いも考えて、意思表示をさせる。	さまざまな立場で臓器提供について考え、理由や根拠を明確にして選択、判断することができる。【判断力】

	☆1を希望（私は、脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも、移植のために臓器を提供します。） ・自分の臓器で誰かが助かるのであれば役立てたい。 ・自分もレシピエントになったとき移植を希望すると思うから。 ・家族は高井さんのように思うと思うが、逆の立場になったときのことを考えて家族を説得する。同じように家族の臓器提供も希望する。 ・自分はほしいが人にはあげたくないというのは虫がよすぎる。 ・葛藤はあると思うが、自分の命が誰かの中で生きると考える方が、命を大切にすることにつながる。 ・死後の体を傷つけないという思いは分かるが、誰かの命を救うことの方を選びたい。 ☆2を希望（私は、心臓が停止した死後に限り、移植のために臓器を提供します。） ・脳死は人の死だと分かるが、家族が脳死になったとき、自分の選択によって心臓を止めることはできない。家族も自分に対して同じ思いだと思うから。 ・心臓が止まってからであれば、誰かの役には立ちたい。 ☆3を希望（私は、臓器を提供しません。） ・自分の体を傷つけることで家族を悲しませたくないから。 ・死をそのまま受け入れたいから。家族の死も受け入れたい。 ・人はいずれ死ぬのだから、誰かの臓器をもらってまで生きるのは傲慢ではないか。 ●ワークシートに理由を記述させたのち、順番にネームカードを貼らせる。3→2→1の選択の順に、意図的指名によって、複数人理由を発表させる。 ●他者の考えを受け入れる姿勢は大切であること、交流の後、再度意思表示できることを伝える。 ●希望があれば、保護者にも参加してもらい、意見を述べてもらう。	（ワークシート）
○移植体験者，レシピエント，臓器提供者の家族のメッセージ	振り返り②	自分の命だけでなく、大切な人の命についても考え、理由を明確にして意思表示ができたか。 自分の価値観をめくり、仲間の考えを受け止め、

	を知り，再度自分の考えを振り返って，班でそれぞれの意見を共有し，理解し合う。	○実際に体験されたそれぞれの立場の人たちの思いを聞いて，自分の考えを振り返って班で意見交流しよう。 ●映像によって，それぞれの苦悩や生きる喜びなど，さまざまな声に耳を傾けさせる。 ●ワークシートに記入した後，班で意見交流させる。ネームカードの変更がある場合もその旨を伝えて意見交流させる。 ●時間があれば，班で出た意見を代表者に発表してもらおう。	どのような思考によって今現在どう選択・判断するのか自分の言葉で相手に伝えるように表現することができる。 【表現力】 (話し合い)
まとめ	○自分の考えの変容や深まりを振り返り，道徳的価値を温める。	○今日の学習を通して「命」というものについて感じたり考えたりしたこと，教材の投書や体験者の思い，友達や保護者の方の考えを聞いて，自分の考えが変化したことなどについて振り返ろう。 ●ワークシートに自由に記述させる。 振り返り③ さまざまな立場の人の意見を受け止め，生命を尊重する立場で考えることができたか。	体験者の思い，仲間の考えも尊重しながら，自他の命の重みについて考えを深め，道徳的価値に基づく自分の生き方を考えることができる。 【思考力】 (ワークシート)